

中国における「池田思想」研究の動向（4）

高橋 強

1) 池田思想研究の学術シンポジウム

湖南師範大学と本学は、2007年10月13、14日、湖南師範大学にて「多元文化と世界の調和」と題し池田大作思想国際シンポジウムを開催した。これには池田大作研究機関を有する15の大学を含め31大学・研究機関の約80名の研究者が参加した。昨年のシンポジウム以降、新たに池田研究機関を設立した台南科技大学、広西師範大学、東北師範大学および学生団体ではあるが池田研究を推進している南開大学「周恩来・池田大作研究会」からも参加者があった。

参加研究者の中で、大学院生の姿が目立った。池田研究に取り組んでいる指導教授と共に論文を執筆しているのである。そうした大学院生が分科会で発表したり、また活発に質問したりして大変に好感が持たれた。池田研究は確かに次の世代にも受け継がれつつある。中国文化大学の池田大作研究センター所長の林彩梅教授によると、同センターでは2008年から池田研究の博士課程の大学院生を受け入れるそうだ。

今回のシンポジウムには、60本を超える論文が寄せられ、昨年、華中師範大学と本学で主催したシンポジウムに寄せられた論文39本を遥かに超えている。提出論文は以下の通りである。

「提出論文」（配布された論文集所収分）

第1編「池田大作平和思想研究」関係

「平和：中国文化の内在精神」唐凱麟（湖南師範大学）

「池田大作の“文化対話主義”に関する一考察」高橋強（創価大学）

「非暴力と中国仏教」前川健一（東洋哲学研究所）

「『法華経』のなかの平和思想」川田洋一（東洋哲学研究所）

「池田大作平和思想の形成過程研究」劉焜輝（中国文化大学）

「池田大作平和思想の平和文化経営理念と多元文化管理に対する成果と影響」林彩梅（中国文化大学）

「池田大作の自然観と風景紀行散文」譚桂林（湖南師範大学）

「池田大作の性善悪と倫理実践思想」王澤応（湖南師範大学）

- 「池田大作の平和観」劉建榮（湖南師範大学）
「池田大作の平和思想および調和世界構築に対する啓発」陳延斌、郭紹影（徐州師範大学）
「宗教的視点およびその世界平和における機能」暴景升（遼寧師範大学）
「池田大作の調和対話理念」田湘波、黄毅（湖南大学）
「仏教と池田大作の人間学思想」李曙豪、黄華明（韶関学院）
「『法華経』の智慧をもった慈航」冉毅（湖南師範大学）
「池田大作の宗教倫理思想研究」董群（東南大学）
「池田大作の“人間革命”論」王德明、陳文苑（広西師範大学）
「池田大作の平和思想研究」覃・勛（武漢大学）

第2編「多元文化の融合探求」関係

- 「多元、共生と調和」盧風（清華大学）
「人間を以って基礎とする文化符合」施曉光（北京大学）
「牧口価値哲学における弁証法」樋口勝（創価大学）
「多元文化における他者との調和」奥田真紀子（中山大學）
「人類共通の道探求」王明兵（東北師範大学）
「池田大作の青年道徳思想とその啓発」紀亜光、劉偉（南開大学）
「池田大作の調和徳育観」陳志興、王麗栄、鐘明華（中山大學）
「“倫”の伝統およびその“終結”と“後倫理時代”」樊浩（東南大学）
「日本倫理の調和的心理システム」許建良（東南大学）
「池田大作の調和教育思想」曾崢（韶関学院）
「池田大作とデューイの教育目的観比較」原青林（肇慶学院）
「池田大作の調和教育思想」黄豊峰（湖南師範大学）
「世界民族の文化多様性問題についての倫理的思考」黄東桂（広西大学）
「池田大作の読書観」官建生（韶関学院）
「多元文化社会と包容の徳性」向玉喬（湖南師範大学）
「多元文化における道徳と世界の調和」聶文軍（湖南師範大学）
「池田大作の音楽文化思想と中国の音楽教育」董芳勝（創価大学）
「文化の伝播と世界の調和」鄭名瑛（湖南師範大学）

第3編「世界の調和構築探求」関係

- 「地球一体化と世界の調和」江暢（湖北大学）
「文明対話と国際関係」汪鴻祥（創価大学）
「日本の国家像の基礎」賈蕙萱（北京大学）
「日本理解と中国認識」賈蕙萱（北京大学）
「池田大作の地球的視野と東洋精神」洪剛（遼寧師範大学）
「民間外交と調和世界」紀亜光、章楊、紙谷正昭（南開大学）

- 「池田大作の家庭観」井上比呂子（創価大学）
「池田大作の環境正義観」曾建平、李雪芹（湖南師範大学）
「池田大作の調和管理思想」陳曉春、譚娟（湖南大学）
「池田大作の軍縮思想」劉少華、陶俊（湖南大学）
「文化多元状況下の社会調和の開始条件」彭定光（湖南師範大学）
「先秦礼文化およびその調和倫理観」鄭志偉（湖南師範大学）
「池田大作の女性観」劉可（湖南師範大学）
「文学即人間学」張露平（湖南師範大学）
「一衣帯水、一脈相伝」武丹、馬紅（桂林電子科学大学）
「調和社会は安定した秩序ある社会」石柏林（湖南大学）
「多元文化の中の池田大作の文学観」李俄憲（華中師範大学）

シンポジウムの最後に大変に興味深い総括がなされた。以下、それを紹介する。

池田大作氏と杜維明氏は、今シンポジウムに素晴らしいメッセージを寄せられた。池田氏はその中で「湖南師範大学に集われた碩学の方々が、大同の世界と地球の調和を目指して成果に富んだ討論を繰り広げ、こうした伝統と精神を生き生きと体現しておられる事を、心から賛嘆するものであります」と述べられた。池田氏にとって、二十一世紀の人類は、多様性を志向し、互いの差異を新たなる価値創造の源泉としつつ、積極的に影響を与え合いながら共存共生することにより、全ての国と民族をかけがえのない存在であるとして尊重する調和の地域社会を構築してしかるべきなのである。杜氏は、そのメッセージの中で「中国の経済発展と政治の民主化を源とする中国文化の研究成果が、開放的かつ自己反省的で、真の意味における調和の社会の実現を鼓舞するものになることを、私は念願するものです。私は、差異の尊重を指導的信念とする池田思想国際シンポジウムが、調和にして非単一化の具現として、中国そのものを理解することに繋がる最も貴重な試みとなることを確信します」と述べられた。

大会のテーマを巡って、樊浩教授が「“倫”の伝統およびその“終結”と“後倫理時代”」（以下、執筆者の加筆。倫理観の変化が生じた現代は、人と自然、社会と生命とが、対立と分裂を起こした“ポスト倫理時代”に入ったと言える。そして不幸にも現代人は「倫」が終わりを迎えた時代に遭遇してしまった。いかにこの難題を乗り越えるかについて言及した。）を、盧風教授が「多元、共生と調和」（以下、執筆者の加筆。現代の多元的な社会では、同一性を求めるのではなく、調和のとれた社会こそ理想である。私たちは人と地球生物圏との調和・共生という面で、深刻な危機に直面している。この危機の脱出に関して見解を述べた。）をそれぞれ論述し展開した。これらは高遠なる構想と独自の見解を有するのみならず、深く掘り下げた解明と探求に裏打ちされた多くの新しい見解を具えたものとして、参加者の強い興味を呼び起こした。

分科会での討論は、精力的に繰り広げられ、極めて豊かな内容となった。参加者は池田氏の人類の平和、世界の調和に関する思想、多元文化の相互融合、如何にして調和世界を構築すべきか等の論題をめぐって、質の高いまた広いかつ精緻な論文を発表した。

多くの学者が、池田氏の平和観あるいは平和思想を専門的に言及し、池田氏は平和を愛し、世界平和事業に尽力する著名な思想家であり、社会活動家であることを認めた。世界平和促進のため、池田氏は、世界50数カ国・地域を訪問し、延べ数十回にわたり、世界的に著名な大学や学術研究機関において、平和に関する講演をし、人間一人一人を育て、「共生の文化」を宣揚し、相前後して国連平和賞、タゴール平和賞、アインシュタイン平和賞等を受賞した。池田氏はこう指摘している。「現代人は余りにも多くの戦争を経験して来ました。我々は、文明を破壊し、貴重な生命を奪い、ひては人類の絶滅をもたらしかねない恐るべき戦争をなくさねばなりません」と。戦争と平和の問題は、我々一人一人と全人類とを問わず、何れも今日における最重要にして最も逼迫した問題であり、戦争を排除し、平和を選択するということが、今日ほど重要性を持つに至ったことは未だかつてなかった。

池田氏にとって、対話は創造性と平和共存関係を生む為のかけがえのない手段であり、対話の基本は、他者及び他の文明に対する寛容の精神であり、真の意味における対話は互いを尊敬し合い、差異を讃え合う寛容の心を持つものでなければならない。

池田氏の平和思想は、戦争と核兵器への反対、新たなる人道主義の探求と人間革命の重視、人間の価値と生命の尊厳への尊重の主張、異なる宗教間の交流と協力の提唱等に体现されている。ある学者は、池田氏の平和思想における平和文化構築の理念や多元的文化の管理や実績に対する影響について論述しつつ、池田氏の仏法を基調とする人道主義の立場は、一貫した人間根本、民衆主体の平和理念を通じてイデオロギーの桎梏を打破し、また人類共生への思い、世界平和への渴望、地球環境保護等の理念に基づき、情勢の急転により生ずる国際問題に対して透徹した緩和と解決の方途を提示し、国家や民族間の紛争を解決する先決条件を強調する、即ち、相互に慈悲と寛大な心で対話を進め、人類をより人道的な新世紀に向かわせるものであると結論づけている。

またある学者は、池田氏の平和思想及びその調和の世界構築に対する啓発的意義を専門的に探求することにより、（1）池田氏の平和思想は、普遍的な人類愛を強調し、一切の暴力に反対し、絶対的平和主義を追求し、依正不二の調和的自然観を唱導するという点に集中的に体现されており、（2）池田氏の平和思想は、調和な世界構築、即ち調和な国際関係構築に対する重要な啓示を有するものであり、グローバルな観念を形成すること、調和の自然観を唱導することが喫緊の課題であって、人類の前途の命運から出発し、戦争に断固反対し、世界平和を擁護し、調和な世界構築に普遍的倫理の支持を与えるべきであるということを、我々に啓示しているのであると結論づけた。

更にある学者は、『法華経』における平和思想に対する全面的な整理と総括をし、法華経の三大思想とは、一に万人の成仏、二に永遠の仏、三に菩薩道の実践であり、この三大思想は衆生の平等、友好的共存、平和的共存等の観念を包含すると同時に、人間は地球市民となって、世界平和のために奮闘すべきであるという観念を包含するものであると指摘した。地球市民は、人間の尊

厳と生命の尊厳を支える深淵な生命観を基本的前提とすべきであり、地球市民の生命観は、永遠なるもの、根源的なものの基礎の上に築かれるものであって、永遠の仏を基礎とすることにより、「方便品」における「万人の成仏」が成り立つのであるという限りにおいて、地球市民は終始一貫して「非暴力」の思想を貫徹し、智慧と慈悲を発揮しつつ地球の調和と安定を擁護しなければならない。恒久的平和な社会の模範として、『法華経』の「薬草喻品」に「三草二木」の譬えが説かれている。これは即ち、地球市民は「多即一」、「一即多」を実現する「多文化の共生観」と「平和の文化観」を具えているということである。各自が桜梅桃梨の原理で個性を開花させ、能力を強化すると同時に、最終的な協力と調整において、共生の統一性が保たれるという文化社会である。「多文化の共生」という文化社会を形成する地球市民自身もまた「多元的自我」であるべきである。中国の歴史における儒教と仏教の典籍における平和思想を発掘することは、多大な意義を有する作業である。

更に、多くの学者が、調和な世界構築をめぐって、自らの観点を発表し、世界が調和へと向かうことは、世界各国が求めるものであり、また人類全体の生存と発展にとっても必要なものであると結論づけた。今日まで発展してきた人類文明は、世界が調和へと向かうことに可能性を提供するものである。世界がすでに一つに繋がった現代にあっては、人類がより良く生存・発展し、調和な世界を構築するというのが、唯一の選択である。世界の調和は、全人類が戦乱に別れを告げ、貧困を一掃することを可能にし、個々人の生存と発展のためにより良き環境を提供し、多くのチャンスをもたらすことを可能にすると共に、個々人により多くの享受を獲得させるのである。世界の調和を構築するには、まず全体的意識を強化し、地球全体と人類全体に着目しながら問題を観察し、思索し処理し、次に世界的組織を強化し、その次に国際協力を拡大させるべきである。

総じて言えば、この度の学術会議は、世界の調和へのプロセスと実践の筋道を探求する大会であり、多元的文化を尊重するという基礎に立ちつつ世界の調和を探求する大会であったと言える。

なお本シンポジウムは、社会的にも大変に注目され、人民日報、光明日報や地元の湖南テレビ、湖南日報等が訪れ、各局、各紙で報道された。

長沙でのシンポジウム以外にも、学術シンポジウムやフォーラムが活発に開催された。

広西師範大学「池田大作研究所」は、2007年4月に桂林で「自然と人間、その調和」と題し、池田大作芸術教育思想研究シンポジウムを開催した。その成果は近日中に『自然、人文と調和——池田大作芸術思想研究文集』というかたちで出版されることになっている。収録予定の論文は以下の通りである。

「儒家思想が池田大作に与えた影響」王徳明、賈先奎

「池田大作の写真芸術を鑑賞して」呂金華

「平和・調和——池田大作の中国観と魂の世界」羅興華

- 「環境保護から見る池田先生の『依正不二』観」于長敏
「『主客融合』の哲学観による写真——池田大作の写真芸術について」帥民風
「人生を透視し精神を見る——池田大作の写真の内側にあるもの」張景鴻
「対話は『調和』の世界に向かう橋」劉益之
「中国と日本が学び合うこと」羅克中
「現象——池田大作先生の写真作品『渦巻く雲』」区五一
「池田大作の教育思想研究」人各蒙
「理想と現実の衝突——池田博士の教育思想と中国の受験戦争」陳雪映
「民衆と共に喜び、共に美を楽しむ——池田大作の芸術・教育思想」孫立川
「心と自然の融合——池田大作の写真作品に見られる自然の美」高献敏

遼寧師範大学「池田大作平和文化研究所」では、2007年4月に大連で地元の大学を招待して、同研究所フォーラムを開催している。「池田哲学と企業文化」、「池田大作の地球的視野と東洋文明」、「池田大作の教育目的観」、「仏教の現代化と池田大作」との4つのテーマのもと、議論が展開された。同研究所はこれらのフォーラムを基礎として、近日中に『超越と回帰——池田大作思想研究概論』を出版する予定である。

2) 新設の池田大作研究機関

東北師範大学「池田大作哲学研究所」（2007年5月設立）

設立趣旨は以下の通りである。「本研究所は、池田大作哲学思想を研究するために設立された専門科学研究機構である。世界の文明という視野のもと、池田大作先生の人間の価値に対する独自の理解、人間と世界の関係に対する独自の覚悟、および人類の生存発展形態やプロセスに対する特別な関心を考察し把握することを通して、その人類の生命の意義や世界の未来に対し与えた哲学思想や普遍的価値を探求する。

西洋の産業革命は世界に現代化をもたらし、地球一体化という波を引き起こしました。この種の変化は、かなりの程度で、西洋の精神哲学の所謂地球的意義と普遍的価値を抛り所とした。しかしながら、西洋現代化の進展過程の中で突出した功利、貪欲、恣意な享楽、精神的苦慮、人間性喪失等の現代の悲しみ悼みと病は、人類に対しまして、西洋の“地方性”知識が代表している地球的普遍的意義や価値に対して、懐疑を起さざるを得なくさせている。と同時に、後発的現代化の非西洋世界は、一方において現代化に尽力し、また他方においてその地域や国や民族の伝統から、心の安定、社会の調和、世界平和への非西洋的因子を、努力して引き出しました発掘し、それをもって西洋現代化の弊害と不足を補った。池田大作先生の理論の精髓は哲学である。哲学という理由で、民族や国境を越えて平和を伝播することが出来、また東洋の哲学という理由で、西洋文化の欠陥に対し弊害を補い、偏りから救い出すことが出来る。池田先生の学問は平和主義の学問で、池田先生の志は人類進歩の志である。東アジアの協力については、長い間池田先生を待望する者が多かった。東アジアの学者は、池田哲学の精髓を味わうにあたり、高く遠方にある池

田大作先生に思いを馳せ、平和にその志を置いている。」

同研究所は、毎月1回の活動を展開している。例えば、2007年9月は「同研究所、池田大作の紹介」、10月は「“多元文化と世界の調和——池田大作思想国際学術シンポジウム”参加報告」、11月は「“牧口常三郎”VCD放映」、2008年3月は「池田大作紹介」、4月は「“桜花の時節”DVD放映」、5月は「池田大作の哲学理念と日本社会」講演会、6月は「人類共通の道を探求——池田大作とトインビー対談から」、7月は「池田大作思想座談会」等、定期的な活動が予定されており、体系化された理解の促進がなされようとしている。

なお、広東外語外貿大学の日本研究センターに「池田大作思想研究室」が、また陝西師範大学に「池田大作・香峯子研究センター」が設立されることが正式に決定された。

3) 池田研究の成果等

2006年華中師範大学にて開催したシンポジウムの論文集『中外学者論池田大作：和諧社会与和諧世界』（華中師範大学出版社2007年9月）が出版された。

中山大學「池田大作とアジア教育研究センター」王麗榮教授の研究「池田大作の德育思想および実践研究」が、中国教育部人文社会科学研究支援プログラムに採択された。極めて画期的な出来事である。

また以下の研究課題が、日中友好学術研究助成プログラムに採択された。研究助成は、「周恩来、鄧穎超と池田大作」、「デューイ教育思想と池田大作教育思想の比較研究」、出版助成は、「超越と回帰——池田大作思想研究概説」、「価値創造：教育の最高目的」、「自然・人文と調和——池田大作芸術思想研究文集」、日本滞在研究助成は、「環境保護と社会の調和：池田大作環境思想研究」、「池田大作心理学思想研究」である。